

# 市町村教育委員会指導主事による校内研究支援の研究

学籍番号 159963  
氏名 島末智成  
主指導教員 木原俊行

## 1. 校内研究の一層の活性化と自立化の推進

本章では、研究の必要性、目的、計画及び研究協力校の実態について論じる。

第1節「授業改善・校内研究の必要性」では、授業改善と校内研究の活性化の必要性について述べる。これからの学校に必要な授業改善や校内研究の今日の特徴について言及する。

第2節「校内研究を推進するための大阪府教育センターの事業」では、大阪府教育センターの事業の展開について述べる。同センターは、学校の授業改善や、市町村教育委員会指導主事の指導力の向上を課題と捉えた。その課題の解決に向けた事業の事例について詳述する。

第3節「学校を支援する指導主事の現状」では、学校を支える指導主事の指導力向上の必要性を確認する。同センターが実施した市町村教育委員会指導主事へのアンケート結果をもとに、その現状に触れながら、校内研究支援の在り方を指導主事に示す必要性について明らかにする。

第4節「研究の目的と計画」では、本研究の目的と具体的な計画について述べる。本研究は、研究の成果を、市町村教育委員会指導主事が校内研究の支援に活用できるようにすることをねらいに据える。また、筆者は、大阪府教育センター小中学校教育推進室の指導主事等からの助言や協議、研究協力校を所管する市教育委員会指導主事からの助言を得て、研究協力校の校内研究の支援全般に関わりながら研究を推進する。これらの研究の目的や計画について詳述する。本研究に協力を依頼する研究協力校である府内K市立K小学校の実態についても言及する。

## 2. 大阪府教育センターの事業を通じた校内研究への支援

本章では、主に平成27年度に実施した大阪府教育センターの事業を通じた校内研究の支援の事例について論じる。

第1節「支援の方向性の検討」では、筆者と大阪府教育センターI指導主事、K市教育委員会S指導主事と共有したK小学校への支援の方向性について示す。

第2節「支援の具体事例」では、筆者らがK小学校に対して行った支援の具体事例について詳述する。学校や対象者のニーズに応じた学習指導案作成の助言、事後協議会の手法や校内研究の継続と発展に向けた模擬授業の提案、次年度を見据えた研究授業の実施、実践のまとめの提供等の支援を行った。

第3節「支援に対する評価」では、筆者らが行ってきた支援に対するK小学校の教職員やS指導主事からの評価について述べる。職員アンケートの結果や、学校の教職員、S指導主事から聞き取ったコメント等をもとに、筆者の支援について振り返る。

### 3. 市町村教育委員会指導主事への支援

本章では、主に平成 28 年度に実施した市町村教育委員会指導主事への支援の事例について論じる。

第1節「支援の方向性の検討」では、平成 28 年度、研究協力校への校内研究支援の主担者となったK市教育研究センターS指導主事に対する支援の方向性について述べる。筆者は、K小学校への支援時に、S指導主事の相談に応じたり、S指導主事に指導助言に活用できる資料を提供したりした。

第2節「支援の具体事例」では、S指導主事に対する支援の具体について詳述する。K小学校の模擬授業に他校の教員の参加を促すといった学校の好事例の普及についての提案や、K小学校とS指導主事及び大学教員とのネットワーク構築の仲介等である。

第3節「支援に対する評価」では、筆者が行った支援が、K小学校や、S指導主事に対して有効であったのかどうかという、筆者の支援への評価について述べる。S指導主事へのインタビューを実施し、評価コメントを聞き取っている。それらのコメントをもとに、筆者の支援について振り返る。

### 4. 市町村教育委員会指導主事の支援に資するリーフレットの開発

本章では、研究の成果として作成した市町村教育委員会指導主事の支援に資するリーフレットの開発について論じる。

第1節「リーフレット開発の意義」では、校内研究支援のポイントをまとめたリーフレットを開発する意義を示す。特に先行研究が少ないとされる指導主事が行う支援の具体を示す効果を指摘する。

第2節「指導主事として意識すべき支援のポイント」では、指導主事が意識すべき校内研究の支援のポイントを明らかにしていく。第2章及び第3章で述べたK小学校の授業実践の事例や、筆者らが行った校内研究への支援や、S指導主事に対する支援の具体を考察していくことによって、指導主事として意識すべき支援のポイントを「PDCAサイクルを意識した支援」、「適切な支援方法の選択」、「好事例の普及と外部人材の活用」、「専門性の向上」の4つに整理した。

第3節「リーフレットの開発」では、研究の成果として開発したリーフレットの完成に至る過程について詳述する。前節で整理した4つのポイントを、「学校を訪問して行う直接的な支援」と「学校外で行う間接的な支援」に分類した。それらに具体例を加え、リーフレットの形に再構築した。まず、プロトタイプとして作成し、同僚指導主事等からの評価を受けて内容を改善したり、追加したりして完成させていった。

第4節「活用への展望」では、研究の成果と今後の展望について述べる。筆者が作成したリーフレットは、大阪府教育センターI指導主事、K市教育委員会S指導主事から全体として肯定的な評価が得られた。このリーフレットを今後の大阪府教育センターでの研修等で活用するという展望を示す。また、市町村教育委員会指導主事にとって本研究の知見が活用されることを期待する。